

一般国道56号 伊予^いインター^よ関連

事後評価

令和2年12月15日



国土交通省 四国地方整備局

1. 事業の目的と概要（1）

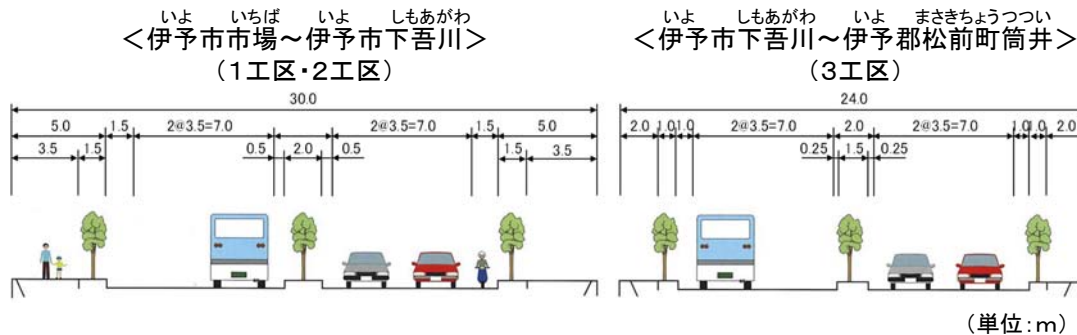
■ 事業目的

- ・4車線拡幅改良による交通流の円滑化と交通安全の確保
- ・都市間及び空港・港湾など交通結節点へのアクセス性の向上
- ・松山広域都市圏・地元産業の活性化

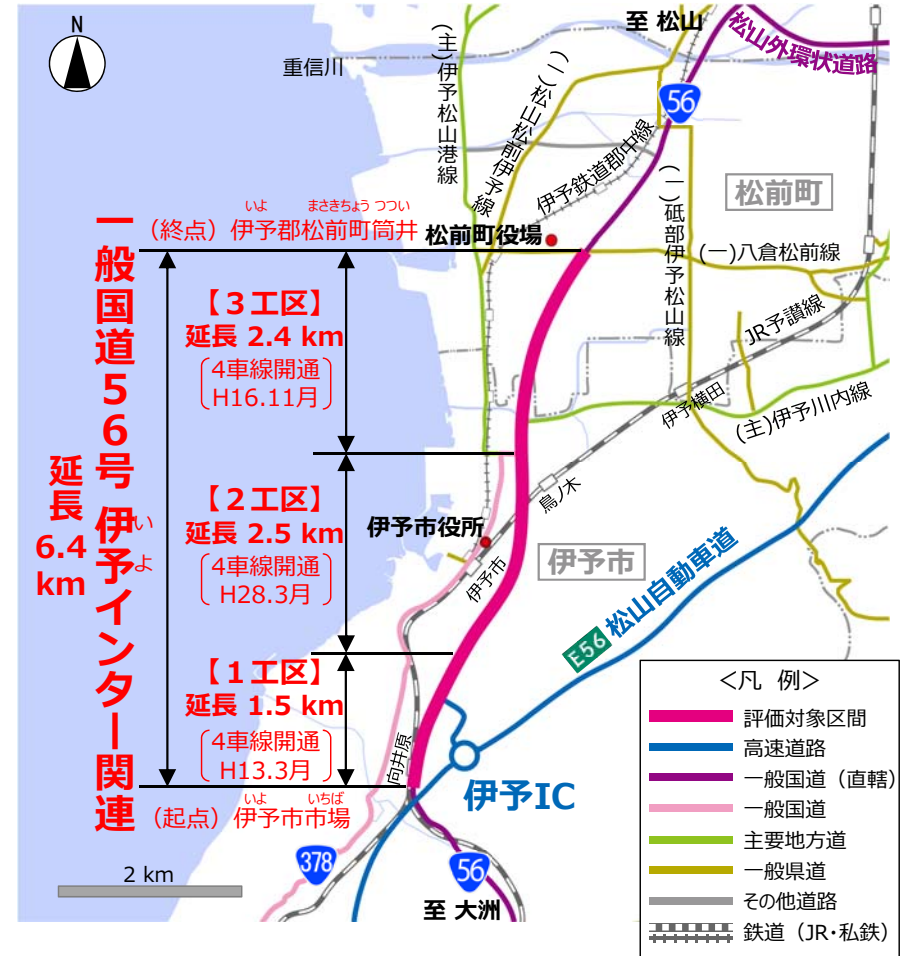
■ 計画概要

項目	内容	
事業名	一般国道56号 ^{いよ} 伊予インター関連	
起終点	愛媛県伊予市市場 ^{いよ いちば} ～愛媛県伊予郡松前町筒井 ^{いよ まさきちょう つつい}	
延長	6.4 km	
構造規格 設計速度等	第4種第1級 60 km/h	
事業の経緯	事業化	平成4年度
	都市計画決定	昭和48年度(3工区)、平成3年度(1・2工区)
	用地買収着手	平成6年度
	工事着手	平成7年度
	開通年	平成28年3月(全線4車線化)

■ 標準断面図



<位置図>



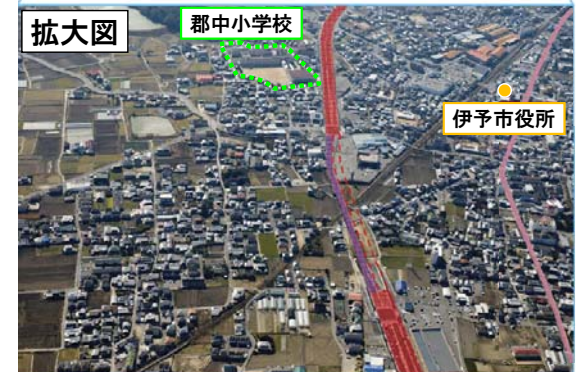
1. 事業の目的と概要 (2)

・1工区は平成12年度、3工区は平成16年度、2工区は平成27年度に完成し、全線4車線開通している。

■ 事業経緯



<2工区整備前:伊予跨線橋付近>
(撮影:平成23年2月)



<整備後:伊予跨線橋付近>



撮影日:平成28年4月

供用年月	H12 2月	H13 3月	H10 1月	H22 12月	H23 7月	H17 6月	H23 7月	H28 3月	H22 3月	H10 3月	H16 3月	H16 11月	H15 12月
車線数	(4/4)	(4/4)	(4/4)	(4/4)	(4/4)	(4/4)	(4/4)	(4/4)	(4/4)	(4/4)	(4/4)	(4/4)	(4/4)
延長(km)	0.6	0.3	0.6	0.4	0.6	0.4	0.4	0.3	0.4	0.4	0.5	1.2	0.3
工区	1工区			2工区					3工区				

2. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

■ 前回評価と開通時の比較

<一般国道56号 伊予インター関連>

	前回評価時 (H26年度※1)	開通後 (H28.3開通)	変化及びその要因
道路構造等	第4種第1級 60km/h 延長6.4km 4車線		変化なし
総事業費	約450億円	約430億円	鉄道横断部における橋梁延長の短縮、橋梁基礎杭および仮設工法の見直し等によりコストを縮減（▲20億円）
計画交通量	14,500～ 32,800台/日 [18,600台/12h※2]	18,300～ 42,500台/日 [18,700台/12h※2]	<ul style="list-style-type: none"> ・前回評価時は、H17全国道路・街路交通情勢調査ベースでの将来（R12）推計値 ・開通後は、H22全国道路・街路交通情勢調査ベースでの将来（R12）推計値
事業期間	平成4年度～ 平成27年度	平成4年度～ 平成27年度	変化なし
費用便益比 (B/C)	1.2※3	1.5	<ul style="list-style-type: none"> ・基準年の変更 ・費用便益分析マニュアルの改訂

※1 前回再評価の結果（平成26年度）の値を記載

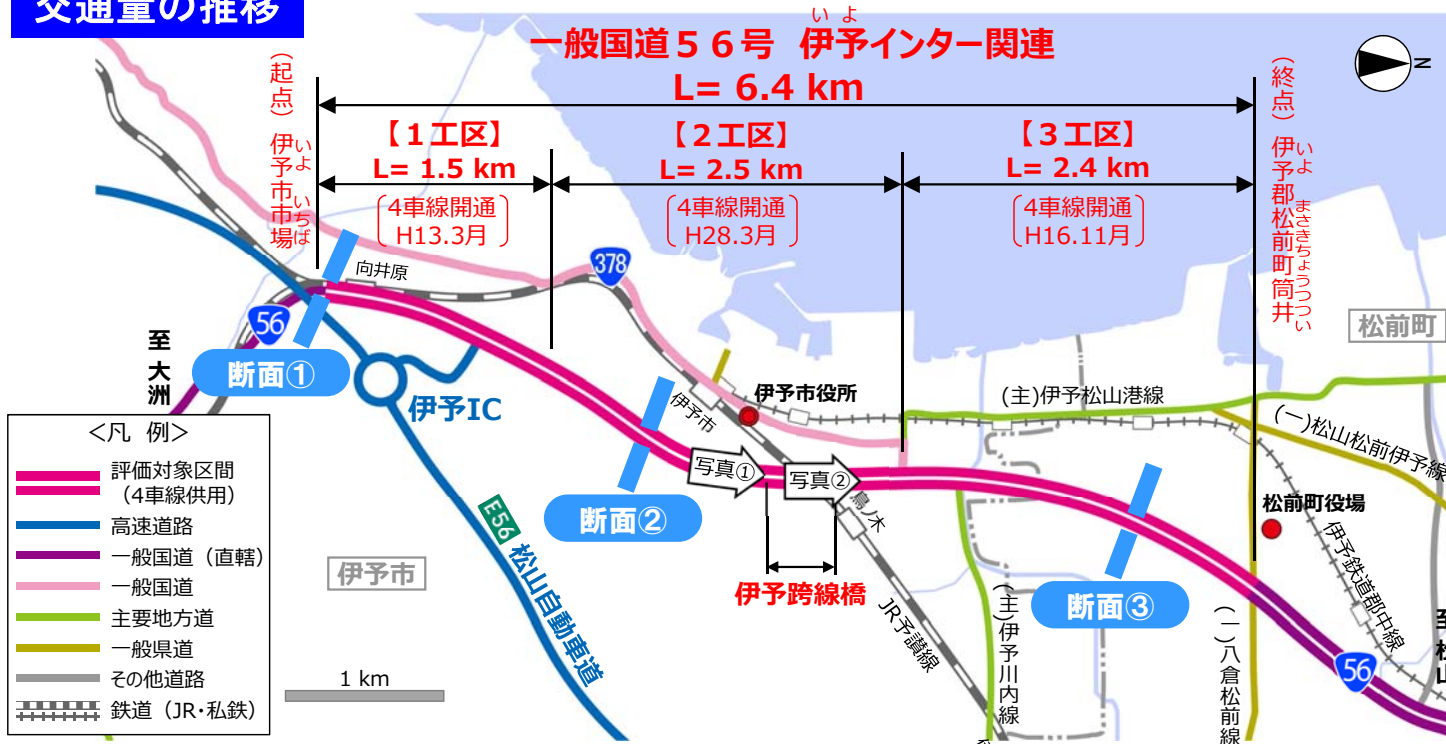
※2 []内の交通量は、上吾川交差点部における交通量調査結果（前回評価時…H27.11.5、開通後…H28.4.19）

※3 H26年度は要点審議のためB/CはH23年度に算出したものを使用

3. 利用状況

- ・**国道56号の交通量は約24%増加。**(松前町:下図の断面③)
- ・4車線整備により、**混雑度は1.0未満に減少**しており、**国道56号の交通混雑が緩和。**

交通量の推移



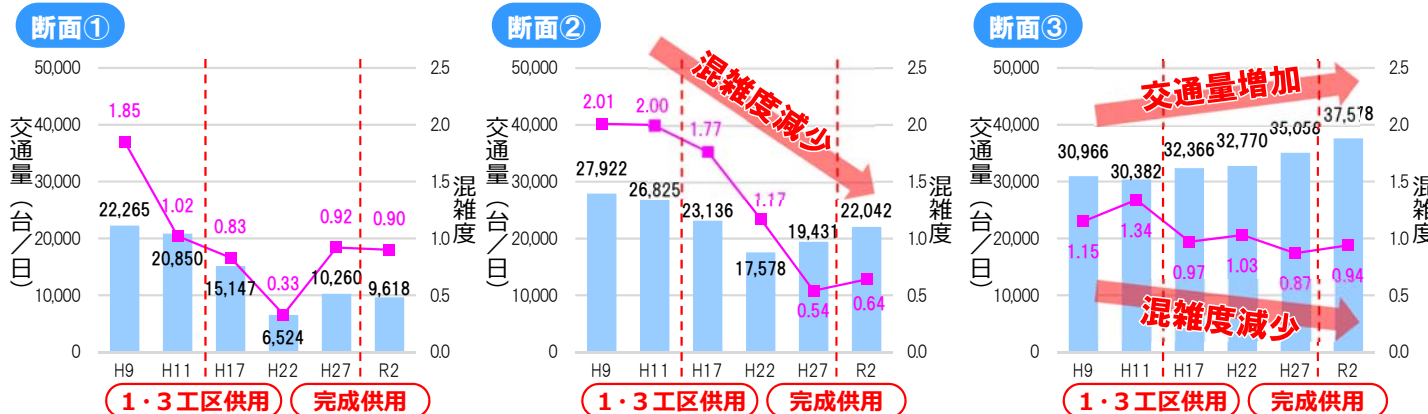
<写真①:上吾川交差点付近>



<写真②:伊予跨線橋付近>



各断面の交通量・混雑度



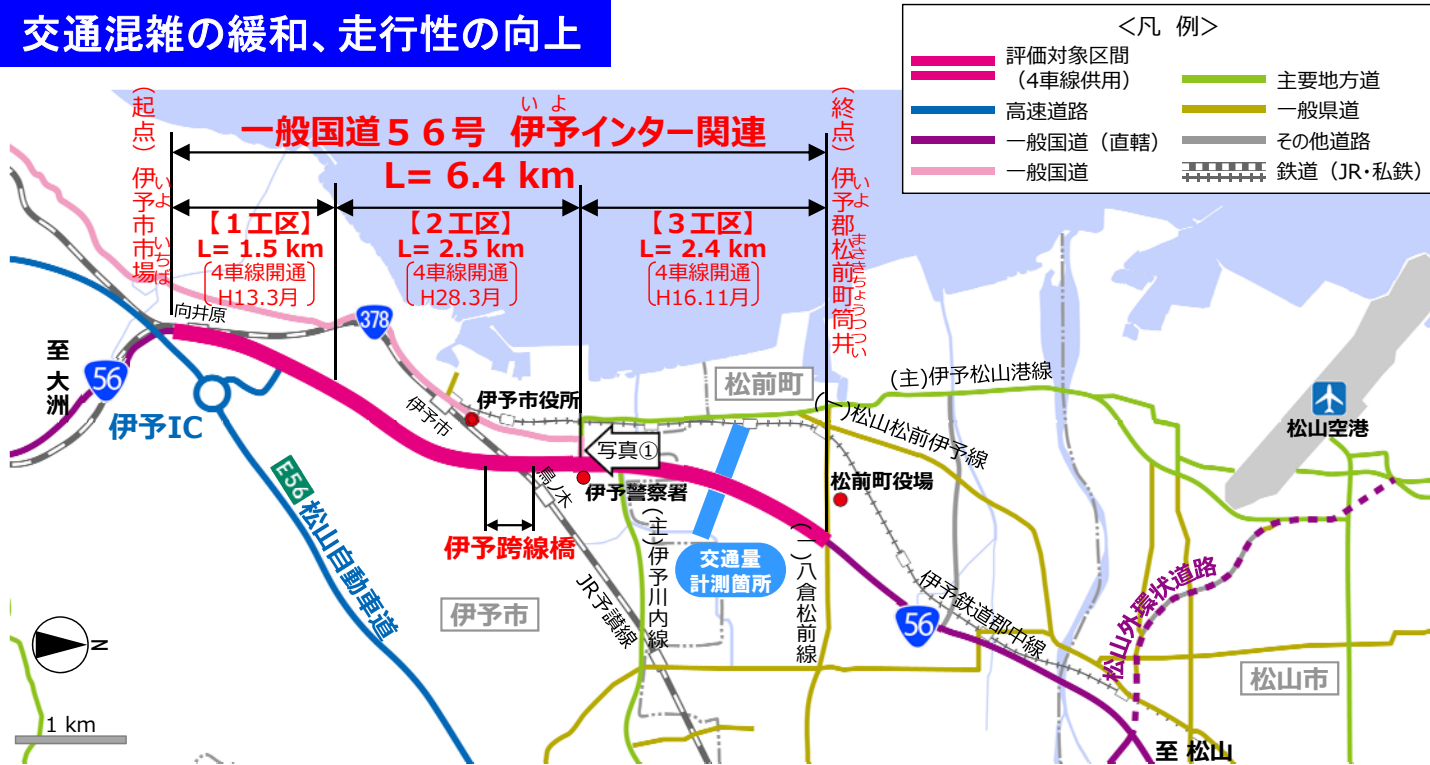
出典:道路交通センサス(H9,H11,H17,H22)、全国道路・街路交通情勢調査(H27)、道路交通量調査業務成果(R2)

4. 事業効果の発現状況

交通混雑の緩和

- ・交通混雑が緩和し、**国道56号の走行性が向上**。
- ・伊予市役所から松山市役所までの所要時間、伊予ICから松山空港までの所要時間ともに、整備前と比較して**約2分短縮**(旅行速度が約1割向上)。

交通混雑の緩和、走行性の向上

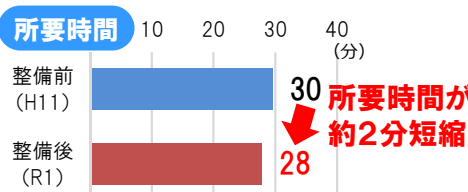
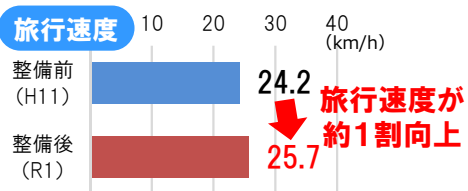


<写真①: 整備前 跨線橋北側(伊予警察署前付近)>

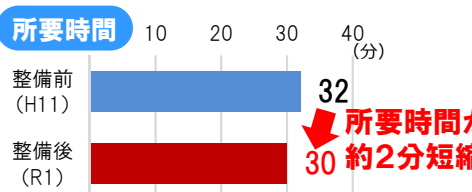
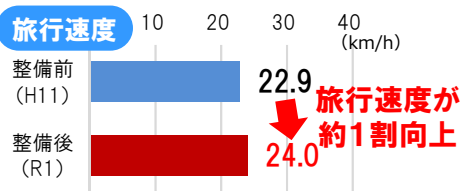


交通渋滞が緩和、走行性が向上

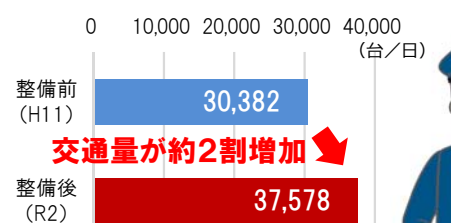
伊予市役所～松山市役所間



伊予IC～松山空港間



交通量 (3工区)



出典:
 (整備前) 道路交通センサス(H11)
 (整備後) 速度・時間: ETC2.0プローブ情報(R1.10)
 交通量: 道路交通量調査業務成果(R2)



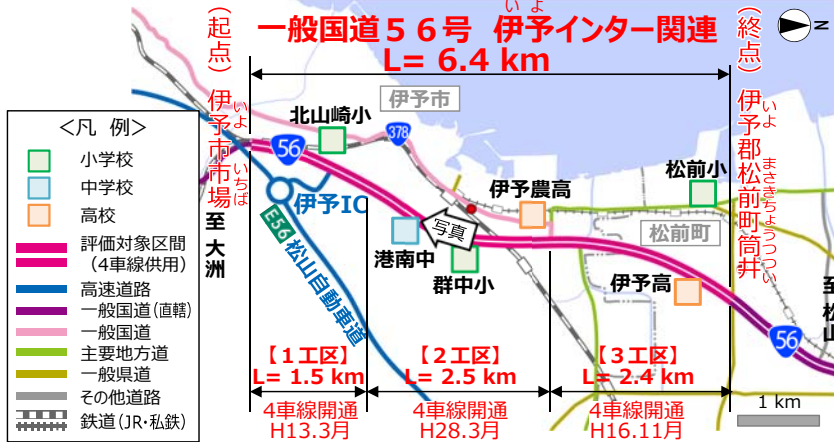
◆道路利用者の声◆

- ・通勤時間帯のバスの遅れが、整備前(2車線時)は最大で40～50分の遅れがあったが、整備後は最大でも20分程度に減少し、定時性が向上した。(バス会社)
- ・車の流れは全体的にスムーズになった。特に、伊予警察署付近の渋滞緩和の効果を実感している。(物流会社)

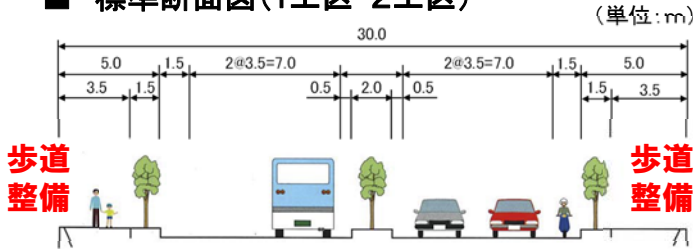
4. 事業効果の発現状況 安心・安全の向上

- ・死傷事故件数は約9割減少、死傷事故率は約8割減少。
- ・国道56号の沿線には小学校等が立地しており、歩道の整備により、通学児童の安心・安全が向上。

安全で快適な道路空間の実現



標準断面図(1工区・2工区)



◆道路利用者の声◆

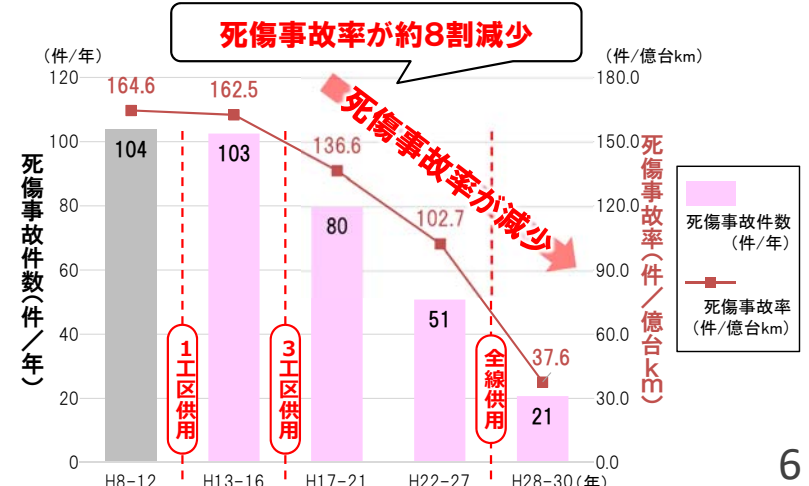
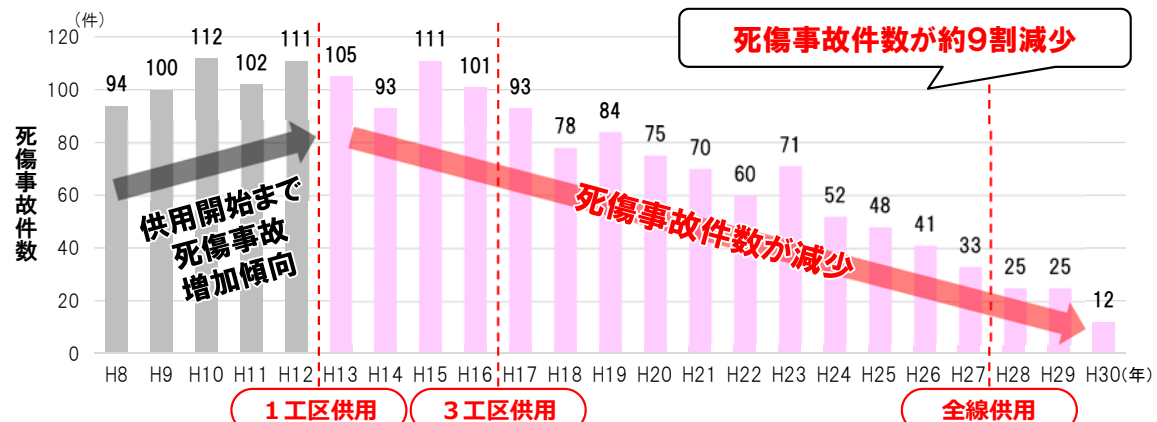
- ・登校時の安全性の向上は実感している。特に、歩道がなかった箇所では、歩道が広がって安全性が向上して良かった。(学校関係者)
- ・道幅と歩道も広くなり視界が良くなった。4車線になってから事故が減った。安全性が圧倒的に良くなった。(バス会社)
- ・昔のように歩行者や自転車飛び出してくる危険がなくなった。歩行者とのヒヤリハットが減り、安全が確保されている。(物流会社)



出典：ヒアリング調査結果(令和2年実施)

死傷事故件数・死傷事故率の推移

出典：H8～H29イタルダデータ

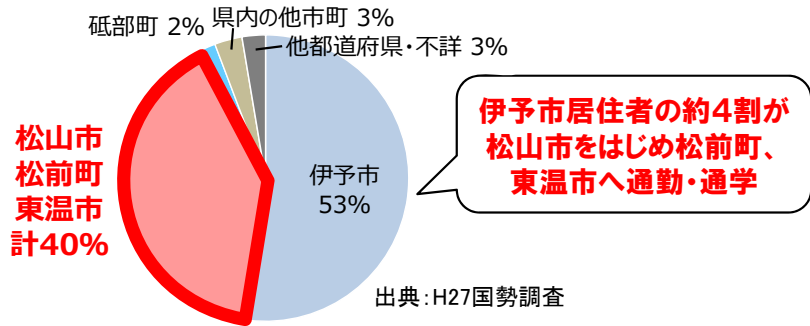


4. 事業効果の発現状況 地域間の移動・救急医療に貢献

- ・地域の人口減少が進む中、**地域間の移動、結びつき支援に貢献。**
- ・伊予市には高次救急医療施設が無く、松山市の高次救急医療施設への搬送割合が高い。
- ・**救急搬送の速達性・安定性の向上に貢献。**

地域間の移動、救急医療への貢献

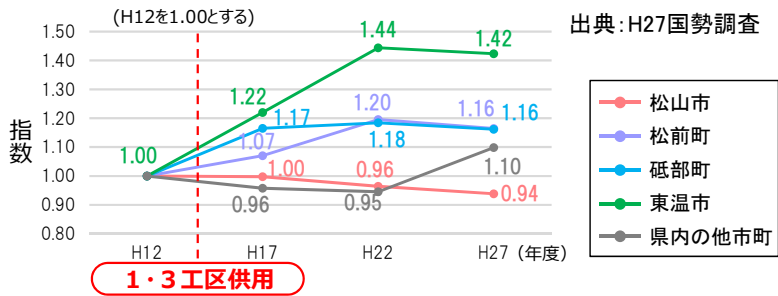
伊予市居住者の通勤・通学先



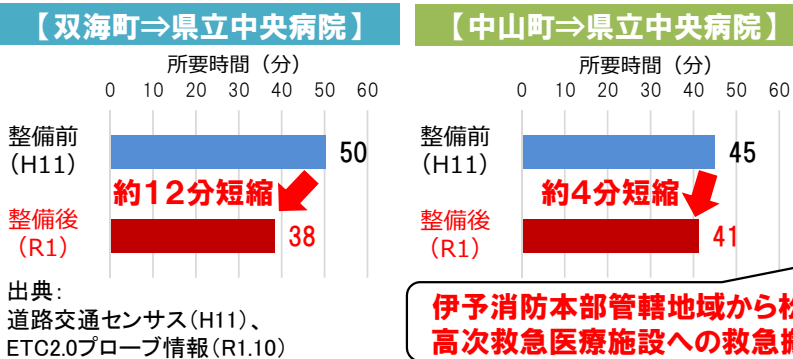
愛媛県立中央病院
(出典: 愛媛県立中央病院ホームページ)



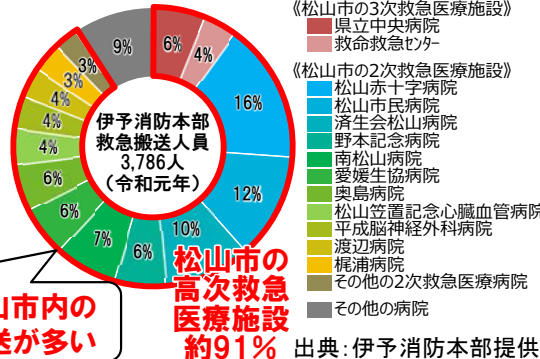
伊予市から周辺地域への通勤・通学者数の推移



県立中央病院(第3次救急)への所要時間



伊予消防本部管轄地域からの救急搬送状況



◆道路利用者の声◆

- ・救急搬送ルートは、高速を使うこともあるが、主に**国道56号を北進し松山市へ向かうルート**を走行している。
- ・整備前は救急搬送時に先行車に左右に避けてもらっても道幅が狭いので通行できないこともあったが、**4車線化により、いつでも通行でき、走行しやすくなった。**(消防関係者)



4. 事業効果の発現状況

地場産業をはじめとする経済活動の支援

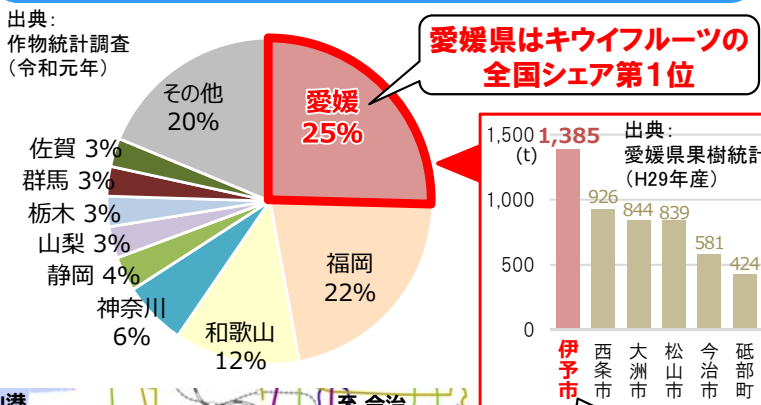
- ・愛媛県の「キウイフルーツ」の出荷量は全国シェア第1位、県内では伊予市での生産量が最も多い。
- ・伊予市の保冷库から国道56号を利用して松山市内の物流拠点へ運び、京阪神や東海・京浜に出荷されている。
- ・物流の効率化が図られ、地域産業の活性化を支援。

地場産業の支援

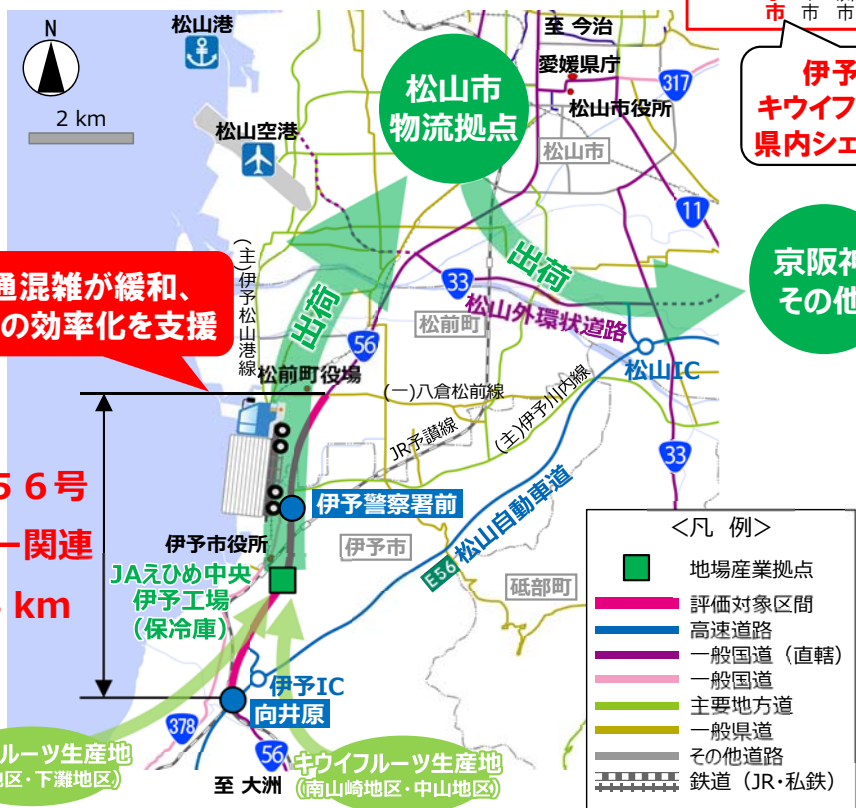
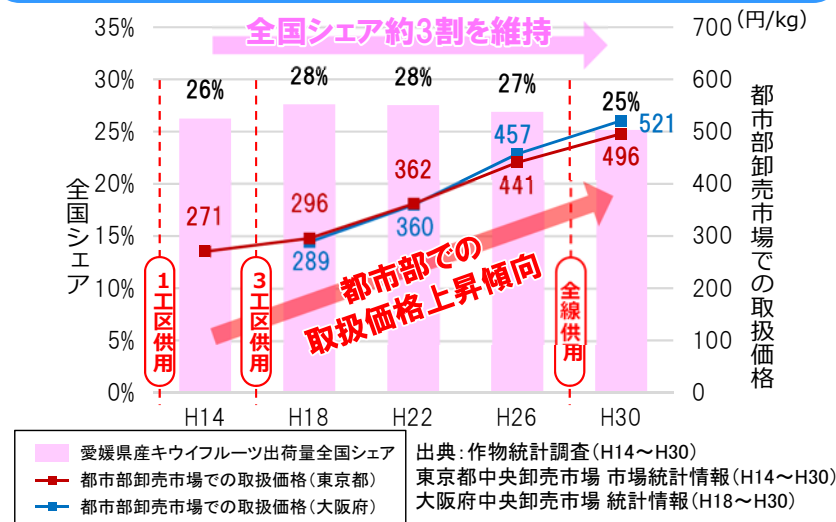


出典：JA全農えひめホームページ

キウイフルーツの出荷量の全国シェア・県内シェア



愛媛県産キウイフルーツの全国シェア・取扱価格の推移



- #### ◆ 道路利用者の声 ◆
- ・ 出荷先は、京阪神が約30%と最も多く、次いで「東海」、その次に「京浜」が多い。（農業関係者）
 - ・ 国道56号の伊予警察署前交差点付近は、整備前かなり渋滞していたが、整備により解消した。（農業関係者）
 - ・ 整備された区間の起点部（向井原交差点）もかなり渋滞していたが、整備により解消した。（農業関係者）
 - ・ 双海・中山方面から松山方面へ出荷する際に、一度保冷库に保管する必要がある。4車線化されたことで、輸送時間の短縮による鮮度向上、輸送中の品質低下防止に繋がっており、高品質なキウイが安定的に供給できるようになるなど、取引価格が上昇して農家の収益向上につながっている。（農業関係者）

4. 事業効果の発現状況 地域のにぎわい創出

・国道56号伊予インター関連の整備進捗に伴って、沿道や周辺地域に大型小売店舗などの新規出店が進み、小売業の従業者数や商品販売額が増加し、地域の雇用拡大や税収増加を支援。

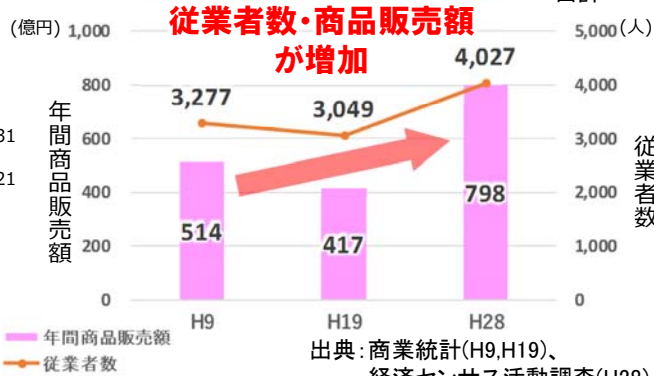
商業活動の支援

大型小売店舗数



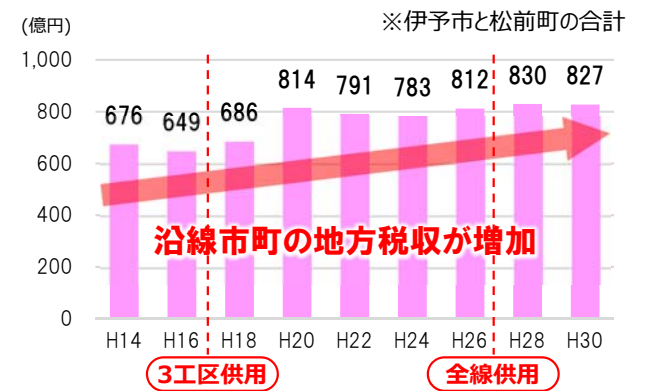
出典：「全国大型小売店総覧2018」(株)東洋経済新報社

小売業の従業者数と商品販売額



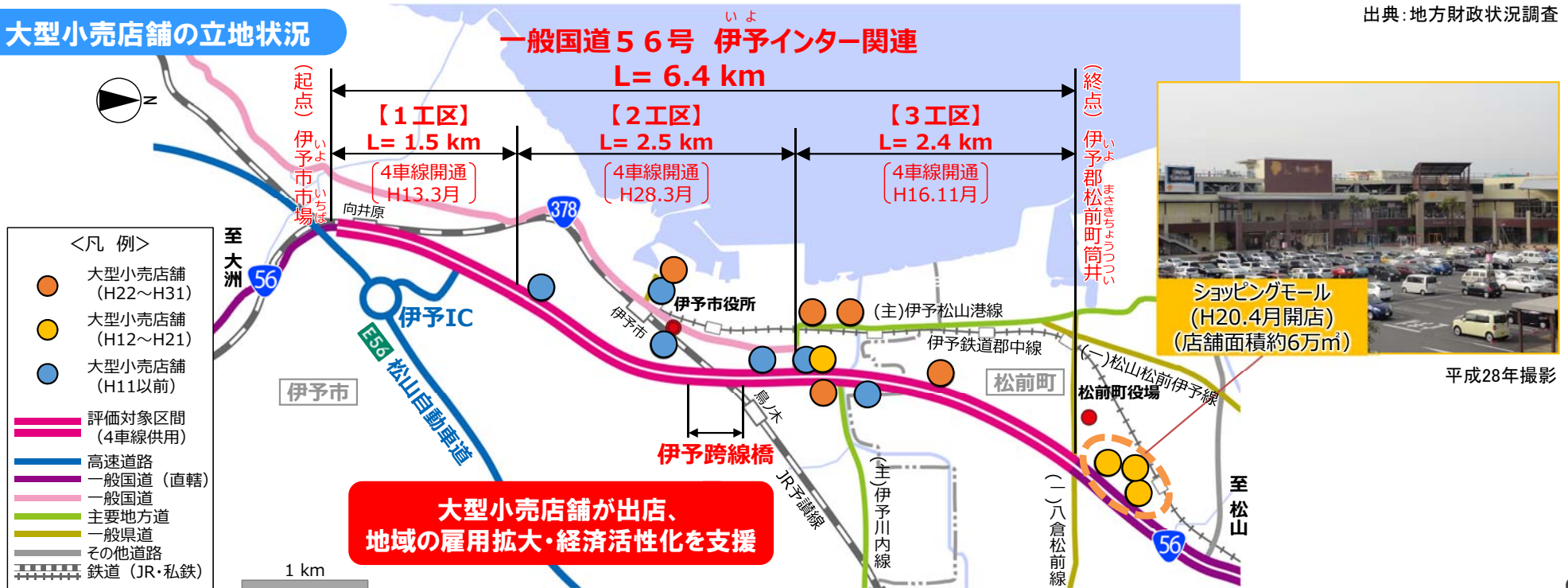
出典：商業統計(H9,H19)、経済センサス活動調査(H28)

伊予市・松前町の地方税収推移



出典：地方財政状況調査

大型小売店舗の立地状況



出典：「全国大型小売店総覧2018」(株)東洋経済新報社

5. 今後の事業評価の必要性等

■ 今後の事業評価の必要性及び改善措置の必要性

- 伊予インター関連の完成供用により、交通流の円滑化と交通安全の確保、地域間の所要時間短縮、救急医療活動への貢献、物流活動の効率化への貢献、沿線への大型店舗出店の進展など、「交通流の円滑化と交通安全の確保、都市間及び空港・港湾など交通結節点へのアクセス性の向上、松山広域都市圏・地元産業の活性化など、主要幹線道路としての機能向上を図る」という伊予インター関連事業の整備目的に見合った効果が確認できていることから、今後の事業評価および改善措置の必要性はない。

■ 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

- 事業前・事業後の整備効果に関して統計指標、ヒアリング等を用いて、整備効果の確認が来ている。
- 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性はない。